序論

はじめに

総合計画策定の趣旨

富里市は、平成２３年度（２０１１年度）から令和２年度（２０２０年度）までの１０年間を計画期間とする、市政運営の基本となる総合計画を策定し、市勢発展に努めてきました。

令和元年の相次ぐ台風や大雨では、本市も甚大な被害を受け、再生に向けた一歩を踏み出そうとしている最中、未だ先が見えない新型コロナウイルス感染症により、社会情勢が一変し、私たちの身の回りの生活にも大きな影響を及ぼしています。

また、社会問題である、少子高齢化の進行による本格的な人口減少社会到来への対応、ＤＸ（デジタル・トランスフォーメーション）推進による行政サービスの効率化、国土強靭化への取組、成田国際空港の更なる機能強化への対応、ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標、Sustainable Development Goals）への取組などが求められています。

本市の最上位計画「富里市総合計画」では、こうした社会構造の変化に対し、市民･企業･大学･行政などが緊密につながり、人やモノが活き活き元気に動き、富里の宝（人材、資源、郷土愛など）を未来へつなぐことを念頭において策定いたしました。

本計画期間には、本市にとって様々な転機が訪れます。令和４年に市制施行２０周年を迎える今、成田空港の機能強化は、本市の持つ様々な資源や富里らしさを最大限活用し、更なる飛躍を遂げる新たな契機となります。

本計画では、今後１０年間と更にその先の将来を見据えて、本市が目指すあるべき姿を景色として描きました。令和という新たな時代とともに、市民一人ひとりが元気に輝きながら学び活躍できる「人が動くまち」､全ての産業から生まれたものが活発に消費される「ものが動くまち」､「人が動く、ものが動く、全てが活き活き動く躍動の富里」の実現を目指し、市民と心をひとつに元気あふれる富里の未来を創造していきます。

子どもから高齢者まで、全ての市民が安心・安全で豊かな生活を送ることができるよう、みんなで手を携え、本市の輝く未来と、故郷として誇れる「我がまち　富里」の実現に向け、市民と心をひとつに合わせ、富里の未来の景色をつくっていきます。

第2節 新たな総合計画が描く未来の景色の特徴

第2章 総合計画とは

第1節 総合計画の基本的な考え方

（1）位置付け

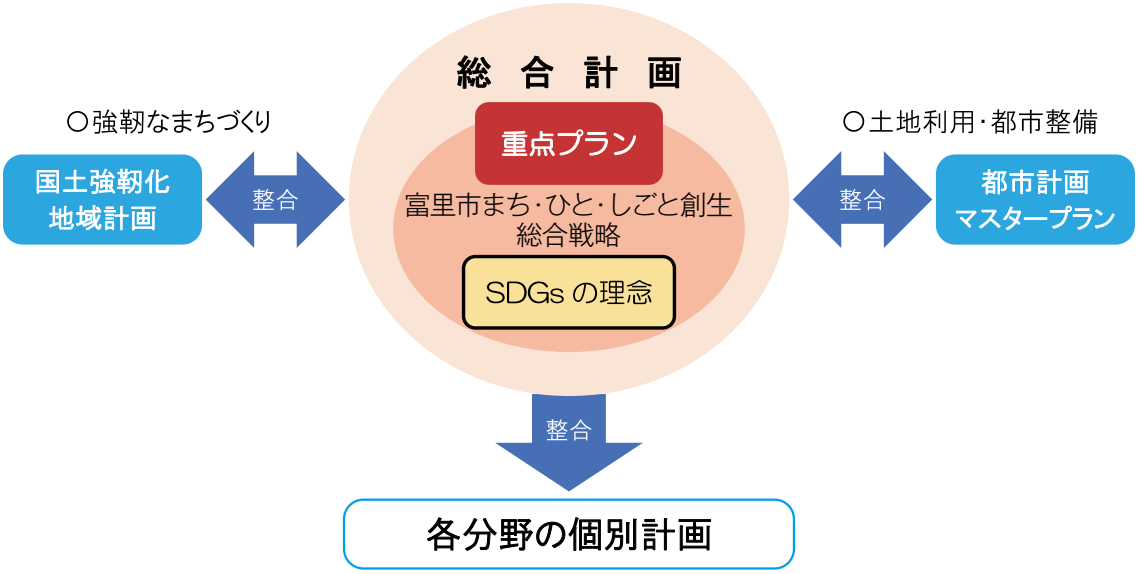
総合計画とは、本市が目指す10年後の未来の景色やそれを実現させるための施策を描いた「まちづくりの指針」となる大切な計画です。計画の位置付けについては、総合計画の最上位である基本構想について、「富里市基本構想の策定に関する条例」の中で市の最上位方針として規定されており、条例の趣旨に沿って構想を実行します。

本市では、平成27年度（2015年度）に、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき国及び千葉県が策定する「まち･ひと･しごと創生総合戦略」を踏まえ、人口減少対策･地域活性化を目的として「富里市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定していますが、当該戦略はまちづくりに係る全ての分野から横断的な視点での施策としているため、新しい総合計画では重点プランとして位置付けることとしました。

また、総合計画策定に当たっては、令和2年度（2020年度）に策定しました、大規模自然災害等に強い国土及び地域づくりのための「富里市国土強靭化地域計画」や本市の20年後の都市及び地域の将来像として描き、これを実現させるための「みちすじ」として策定している「富里市都市計画マスタープラン」と整合を図りながら策定しました。

なお、富里市総合計画の実行に当たっては、各分野の方針や具体的な取組を示した個別計画と連動しながら、SDGs の理念を取り込み、富里市総合計画で描くまちづくりの将来像（未来の景色）の実現に結びつくよう取り組んでいきます。

【 総合計画の位置付け 】



（2）計画の構成

総合計画は、中長期的なビジョンを示す計画であるため、基本構想（長期的なビジョン）、基本計画（中期的なビジョン）、政策実行計画（個別事業）の3層構造で、本市の目指すところを示すものとします。

1 基本構想

令和4年度（2022年度）から令和13年度（2031年度）までの10年間のまちづくりの基本的な考え方、本市の目指す「将来像」を示すとともに、将来像の実現に向けた「まちづくりの目標（施策の大綱）」を定めます。

2 基本計画

基本構想に定めたまちづくりの目標を達成するための施策の体系を示すとともに、施策の基本方針、指標や施策の展開を定めるものとし、前期5年、後期5年の計画とします。

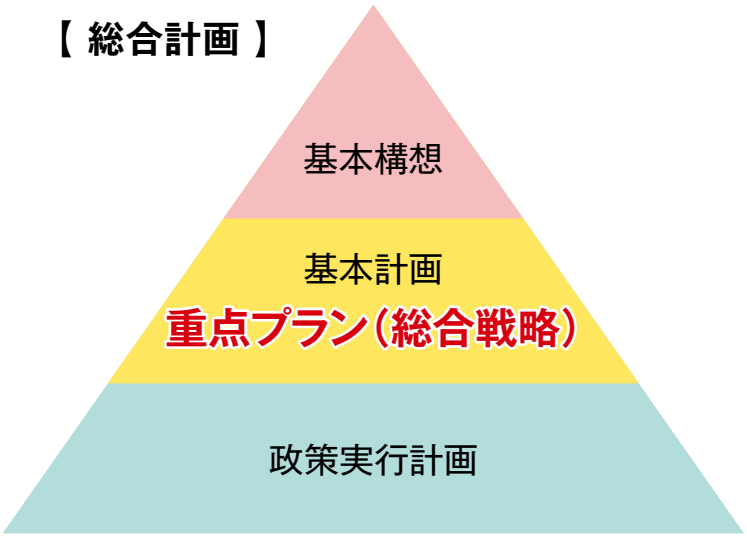
3 重点プラン（富里市まち・ひと・しごと創生総合戦略）

富里市まち･ひと･しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）については、基本計画のうち、雇用や人口減少対策など、地方創生による今後のまちづくりにおいて、特に重点的・分野横断的に取り組む施策として位置付け、基本計画と同じ5年間の計画として、優先的・重点的に実行する計画とします。

4 政策実行計画

基本計画の施策を展開するため、市に裁量のある政策に特化した事業について、3年間の時間軸で設定する戦略や改革の具体的な施策を明らかにするとともに、事業の評価や予算編成などとの連携を図ります。

政策実行計画の計画期間は3年とし、ローリング方式で毎年度見直しを行います。

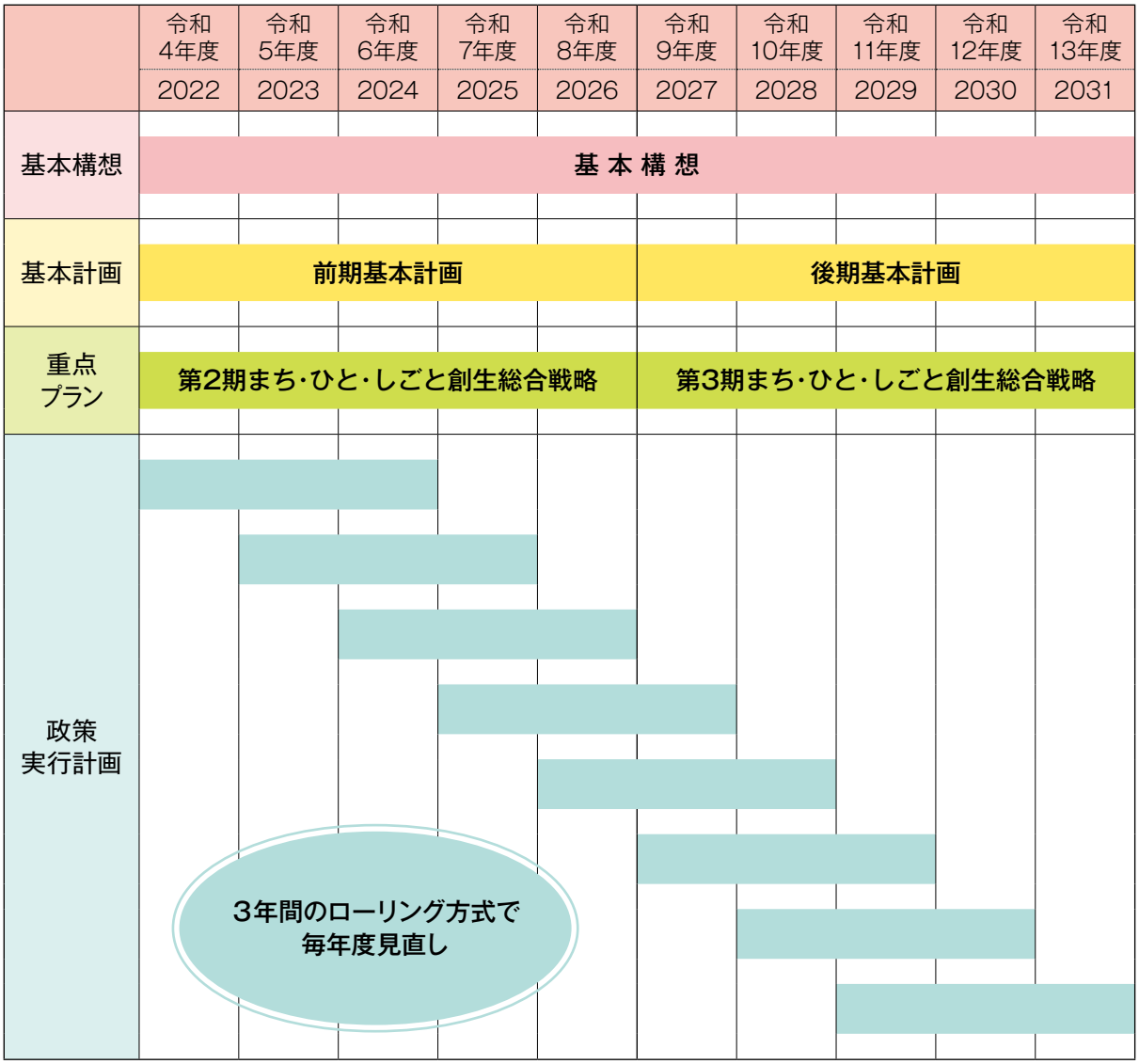


（3）計画の期間

総合計画の目標年次は令和13年度（2031年度）とし、基本構想、基本計画、政策実行計画、それぞれの計画期間を次のとおりとします。また、本計画の重点施策としての性格を持つ重点プラン（総合戦略）は、前期基本計画と同期間になります。

<table>
<tr><th colspan="3">総合計画</th><th>重点プラン
（第2期まち･ひと･しごと創生総合戦略）</th></tr>
<tr><td>基本構想</td><td colspan="2">令和４年度～令和13年度【10年間】</td><td rowspan="4">令和４年度～令和８年度
（毎年度検証）

【５年間】</td></tr>
<tr><td rowspan="2">基本計画</td><td>前期</td><td>令和４年度～令和８年度【５年間】</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>令和９年度～令和13年度【５年間】</td></tr>
<tr><td>政策
実行計画</td><td colspan="2">【３年間】</td></tr>
</table>



第3章 富里市の現状

第1節 富里市の魅力

（1）地域コミュニティの充実

本市では、平成２２年４月に「富里市協働のまちづくり条例」が施行されて以降、市民、地縁による団体、市民活動団体、事業者及び市が自らまちづくりに参加し、それぞれが共に考え、協力し、行動することにより、住み良い豊かな地域社会の実現を目指して取り組んでいます。

また、高齢者自身がこれまでの知識や経験を活かし、元気にいきいきと地域コミュニティづくりに参画するなど、元気な高齢者が多いといった特徴があります。

更に、「富里市まちづくり市民会議」において、富里市の良いところとして、人が温かい、人間味のあるまち、ボランティア団体が多い、といった「人」のすばらしさについての意見が多数挙げられています。

（2）日本の空の玄関成田空港に隣接

本市は、日本の空の玄関である成田空港に隣接していることから、空港関連企業の立地や空港に勤務する市民が多く、また、人口に占める外国人住民の割合が県内で最も高いといった特徴があります。

現在、成田空港は機能強化が進められており、空港職員や利用客など、周辺エリアを往来する人が更に増加することが予想されます。

今後、新たな企業の立地による産業振興や雇用創出効果が期待されており、成田空港に隣接する本市にとって、大きな強みと言えます。

（3）都市近郊の自然景観

本市は、それぞれの水系に沿って谷津が広がり、斜面にみられる樹林地のまとまりには、源流や豊かな生態系が生まれ、農地が広がる中に牧場が点在し、本市の原風景が多く残された豊富な自然に包まれたまちです。

また、市民意識調査において、本市で誇れるものとして「緑が多い、自然が豊か」であることを回答した市民は多く、都市近郊の緑豊かな田園や里山の景観は、市民の本市への愛着につながっています。

中沢城址

（４）旧岩崎家末廣別邸・「末廣農場」をはじめとした観光資源

本市には、毎年おおむね10万人の観光客が訪れています。国の登録有形文化財旧岩崎家末廣別邸などの観光資源があり、本市初の観光･交流拠点施設となる「末廣農場」では、岩崎家が物語るストーリー性を活かし、地域が一体となって来訪者をもてなす、地域による地域のための拠点づくりを進めています。

また、「富里スイカロードレース大会」の知名度が高く、毎年全国から約1万人のランナーが集まる大会となっています。

旧岩崎家末廣別邸

（５）魅力を秘めた地域の産業

本市は、日本の空の玄関である成田空港に近く、全国につながる高速道路のインターチェンジも設置されており、産業を展開するための地の利に恵まれています。

また、本市の基幹産業である農業では、全国的に有数な特産品であるすいかやにんじんなど、多様な農作物の生産が行われています。

特にすいかについては、全国初となる「富里市すいか条例」を制定し、富里のすいかを守り、その魅力を発信することに取り組んでいます。

商工業では、市内2か所の工業団地に物流業を中心に多数の企業が進出する中、企業立地に対するニーズも高くなっています。

（６）多数の大型商業施設等による高い生活利便

本市は、富里インターチェンジ周辺や幹線道路の沿道を中心に、生活に必要な多種多様な大型商業施設やロードサイド型の店舗が多く立地しており、生活必需品の購入や外食に関する利便性が高い地域となっています。

また、市民意識調査においても、「市内での買い物の便利さや商業施設の充実」に対する満足度は、他の要素と比較して高い状況です。

第2節 富里市の主要課題

令和元年８月に実施した「富里市市民意識調査」の結果や、令和元年７月から11月にかけて開催された「富里市まちづくり市民会議」における委員からの意見を参考に、富里市の主要課題を以下のように整理します。

（１）高齢化の進行、コミュニティの維持

本市は、これまで千葉県平均よりも低水準で推移していた高齢化率が、令和元年（２０１９年）に初めて千葉県平均を超えました。この状態が更に進行すれば、コミュニティを維持することが困難な地区が発生することが危惧されています。

また、東日本大震災や令和元年房総半島台風で受けた停電等の被害により、市民の間で助け合いの重要性が再認識されました。困っている人がいれば助ける、というコミュニティの絆を深める第一歩となる意識を、多くの市民が改めて持つ機会になったと言えます。

前例や既存の仕組みにとらわれず、持続可能なコミュニティの在り方を検討していくことが求められています。

（２）雇用の場の拡充

本市は、高齢化の進行に備えるだけでなく、人口構造を改善していくための、生産年齢人口の増加を図ることが必要となっています。

企業誘致により、市外から新たな事業者が立地することを目指すだけでなく、農業や観光資源を活用した雇用創出に取り組み、転入してくる若者が地域に魅力を感じながら生計を立てていく選択肢を確保していくことが重要となっています。

（３）健康維持の重要性の高まり

生活習慣病の増大は、医療費等の社会保障費の増大を招き、財政を圧迫する要因となっています。今後高齢化が進行していく中で、生活習慣病が更に増大する危険性があります。特に、本市は他市と比較しても後期高齢者の割合がまだ低く、市民の健康維持がこれから更に重要になってくると考えられます。

生活習慣の改善や健康の維持は個人の幸福のためだけではなく、社会全体のリスクの軽減につながります。市民とそうした意識を共有しながら、健康づくりに努める必要があります。

（４）移動手段の確保、公共交通の利便性向上

鉄道のない本市では、自家用車の利用が多く、公共交通（バス、タクシーなど）ネットワークの維持が課題です。高齢化に伴い、公共交通機関に頼らざるを得ない市民の増加が予想され、移動手段の確保は生活利便性の問題だけでなく、福祉的な面からも必要性が増しています。

また、観光振興においての課題でもあり、観光客に対する空港や鉄道駅からの二次交通※1 について、利便性を向上させる施策が必要です。

（５）老朽化した公共施設やインフラの維持

本市では、公共施設などの老朽化が進む中、大規模修繕等の時期を迎えており、今後、多額の財政負担が集中すると見込まれています。

適切な維持管理や計画的な補修を進めるとともに、施設の長寿命化や官民連携手法の活用などについて検討を進める必要があります。

（６）持続可能なまちづくりへの転換（持続可能な財政運営、歳入改革）

多様化する市民ニーズや高齢社会への対応、また、災害に強いまちづくりを進めるため、将来負担の抑制や自主財源の確保に努めていますが、新型コロナウイルス感染症の影響による経済対策や生活支援のための経費の増加など新たな行政需要が見込まれることから、財政運営は更に厳しくなる可能性があります。

本市が将来にわたって持続可能なまちづくりをしていくためには、財源確保に向けた歳入改革を柱に、企業誘致や公有財産の適正な管理・運営による財政基盤の確保を図る必要があります。

※１ 二次交通：主要な空港や駅から観光地までの移動手段となる路線バスなどの交通機関のこと。

（7）質の高い教育の必要性

核家族・共働き家庭の増加、地域コミュニティの希薄化など、子どもが人とふれあう機会が減少しており、家庭や地域の教育力が低下している状況下で、ＧＩＧＡスクール構想※2 などによるＩＣＴの活用や国際教育の必要性の高まりなど、子どもを取り巻く環境が目まぐるしく変化しています。多様な教育が必要になる一方で、生まれ育ったふるさとへの愛着や誇りを醸成することで、心豊かな人間を育成することも求められています。

子どもたちの「生きる力」を育成するためには、家庭・学校・地域社会が共に子どもに向き合いながら、学びと成長・発達の連続性を保障した教育を推進していく必要があります。

（8）豊かな農地と自然環境の保全・承継

基幹産業である農業は、すいかやにんじんをはじめとした数多くの農産物を生産し、豊かな農地に恵まれた環境である一方、今後の担い手不足が懸念されています。

また、緑豊かな森林や谷津も、本市の特徴の一つであり、特に谷津については管理する担い手不足等により、管理が困難な田や斜面林が増加しつつあります。

更に、生物多様性を維持するために重要な資源である自然が多く残されており、その環境保全も必要です。

一部の地域では、農地や豊かな自然環境を保全し、次代へと継承していくための活動が行われていますが、今後は市内全域への展開や活動の継続への支援が求められています。

天神谷津

※２ GIGA スクール構想：全国の児童・生徒１人に１台のコンピューターと高速ネットワーク環境を整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を全国の学校現場で持続的に実現させる、文部科学省の構想。「GIGA」は「Global and Innovation Gateway for All」の略。